



信楽園病院だより



第168号 平成27年3月1日 発行

〒950-2087 住所新潟市西区新通南3丁目3番11号 TEL 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail renkei@shinrakuen.com ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

臨床工学技士が管理する 医療機器の危機管理体制について紹介します

臨床工学科

阪神・淡路大震災、中越・中越沖地震、東日本大震災等を経験したようにいつ災害に見舞われるかわかりません。当病院の臨床工学科は主に透析、医療機器、医療ガスを管理しています。災害の管理体制について紹介します。

〈透析の災害体制〉

透析治療は、水と電気が必要です。透析治療は1人1回120L（牛乳パック120本分）の大量の水が必要です。断水時は院内の受水槽から供給します。

停電対策として、院内に自家発電装置を完備しています。全ての透析監視装置にバッテリーが装備してありますが、その保守点検は、臨床工学技士が行っています。



免震 ゲルセーフ



バックアップシステム

透析液を供給する装置は、装置と床の間に免震機能をもつゲルセーフ（写真）を敷き、倒れにくくしています。万が一の故障に備えて装置間でバックアップできるシステムも完備しています。

東日本大震災では、福島から透析患者様30名を受け入れ3週間にわたって透析治療を行いました。（新聞報道）その際は、透析治療を開始するまでの手続きに手間取ったことや情報伝達の不手際など様々な問題を経験しました。

そのような受け入れ体制の不備も含めて今後も災害や有事の際に備えていこうと思います。



受け入れ時の新聞報道

〈医療機器の災害体制〉

ほとんどの装置にはバッテリーが搭載されています。臨床工学技士が定期的に交換しています。地震が起きた際、各病棟で使用している人工呼吸器等の医療機器が正常に作動しているか確認しています。



バッテリー交換、点検



圧縮空気作成装置

〈医療ガスの災害体制〉

病院では、酸素、空気、吸引など様々なガスを扱っています。圧縮空気を作る機械などは2台配備し、もし1台が故障しても供給できる体制をとっています。また万が一に備え予備のボンベも常備しています。

臨床工学科ではこのような危機管理体制をとっていますが、更に災害時の体制向上に取り組んでいきたいと思っています。



予備のボンベ